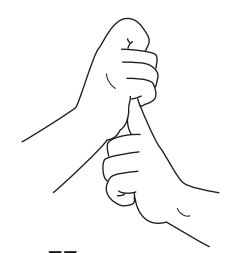


設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。

○×記入欄

- 例題 全日本宗教用具協同組合が定める仏壇の日は毎月27日である。
- 問1 釈尊は愛する者と分かれる苦しみを「愛別離苦」と表現し、五苦九苦の中に挙げた。
- 問2 仏像は釈尊が説法していた時代に登場した。
- 問3 敦煌・雲崗・龍門の石窟はいずれも現在の中国にある。
- 問4 四天王寺（大阪）は聖徳太子によって建立されたとされる。
- 問5 智顛は『法華経』を最高の経典とする天台宗の教えを確立した。
- 問6 浄土五祖の一人で浄土真宗七高僧の一人でもある善導は平安時代に日本で生まれ、京都で法然に教えを伝えた。
- 問7 『只管打坐』は道元の座禅の特徴を表す。
- 問8 三帰依文の三帰とは仏法僧に帰依することを言う。
- 問9 融通念仏宗の宗祖は良忍である。
- 問10 三十三間堂の千手観音の造立には運慶の長子である湛慶も加わった。
- 問11 廃仏毀釈は室町時代に起こった。
- 問12 「仏壇屋」は江戸時代には登場していた。
- 問13 右の如来像は阿弥陀如来像である。
- 問14 智拳印とは大日如来の印相である。
- 問15 右の両脇侍は曹洞宗のものである。
- 問16 2人以上の法要を合わせて行うことを併修という。
- 問17 亡くなってから次に生まれ変わる間のことを中有、あるいは中陰と呼ぶ。
- 問18 七七日（四十九日）法要を「喪明け」法要と呼ぶ。
- 問19 十三仏は三十三回忌までの主要な法要に対しての仏のことである。



採点欄

--	--

(前頁よりの設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

○×回答欄

- 問20 仏教の七七日（四十九日）法要にあたる神道の神事は五十日祭である。 ……
- 問21 死別による悲しみを受け入れるために行うカウンセリングをグリーンケアと呼ぶ。 ……
- 問22 立て塗り漆は、漆を塗布後に研磨することを前提としている。 ……
- 問23 伝統的な技法で作られる金箔を縁付け金箔と呼ぶ。 ……
- 問24 金箔の上から金粉を蒔いて仕上げることを「ぬぐい」と呼ぶ。 ……
- 問25 漆やカシュー樹脂塗料などで模様を描き、その上から金粉・色粉などで加飾することを蒔絵と呼ぶ。 ……
- 問26 電鍍金具とは金属に機械的に圧力を加え文様を作り出した金具のことである。 ……
- 問27 木地、塗り、金箔押し、組立仕上げの4工程を国内で行った金仏壇は
仏壇公正競争規約で「国産」と表示できる。 ……
- 問28 ホワイトシカモアはカエデ科の樹木で縮空を特徴としている。 ……
- 問29 ウォールナットとはクルミ科の樹木であり、加工性にも優れている。 ……
- 問30 仏壇公正競争規約ではカリンを紫檀と表示できる。 ……
- 問31 オープン仕上げで使われる塗料はポリエステル樹脂塗料である。 ……
- 問32 仏壇公正競争規約でタモは「櫟」と表記できる。 ……
- 問33 浄土真宗本願寺派では茶湯器を用いお茶を供える。 ……
- 問34 右の仏具の名称は供^{くげ}筒である。 ……
- 問35 ^{どんす}緞子は光沢を持ち、文様が明瞭に表され、御前座布団などとして用いられる。 ……
- 問36 浄土真宗では法名の上に『釋』を付ける。 ……

問34

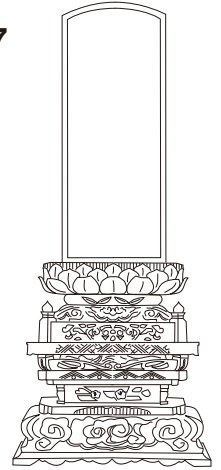


採点欄

--	--

(前頁より設問の続き 設問1 次の設問で内容の正しいものには○を、間違っているものには×をつけなさい。)

- ×回答欄
- 問37 右の位牌は五重座である。 問37
- 問38 本連珠数の珠の数は原則として108である。
- 問39 塗り製品に限らず銅器などの金属製品の場合も、研磨工程は重要であり、高級品では炭による研磨が行われる。...
- 問40 浄土真宗ではお線香を3本立てる。
- 問41 伝統的な和蠟燭の芯は、和紙に藺草の芯を巻いたものが使われる。
- 問42 P L法とは販売者安全責任法のことである。
- 問43 仏壇公正競争規約では「店頭等における必要表示事項」で原産国表示が必要である。



設問2 次の設問の語句で正しいものには○を、間違っているものには×を下の回答欄に書いてください。

例題 真言宗の宗祖は《道元》である。

宇治の平等院は藤原頼通により平安時代に建立されますが、平等院の本尊は《問1 阿弥陀如来》で、この時代を代表する
 仏師定朝により《問2 乾漆技法》で作られました。平安時代は末法の時代で《問3 仏の教えのみあり、修行と悟りのない時代》で
 あるとされました。源信は《問4 『歎異抄』》を著し、地獄の様子を伝え、死後地獄に墮ちることの恐ろしさが貴族の間に広がりました。
 《問5 七七日》のお裁きに閻魔大王が登場する『十王経』が中国から伝わるのもこの時代で、地獄に墮ちることを逃れるために
 生前に供養を済ます《問6 逆修》も広がります。『十王経』は日本で『地藏十王経』に変化し、三途の川で亡者の衣服を
 剥がすという《問7 奪衣婆》が登場するようになります。

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7

設問2 ○×回答欄

採点欄

--	--